

## 役割分担の妙

# 再集合とこれから

## 「妙」な話

下沢 聰夫 (高36回)

我々の始動は早かった。が、医療というテーマの方に向性のまま絞り切れず残り1年。程なく絶妙な歯車でゴールまで展開されていく事となる。

### テーマの妙

柳澤昭浩君がN P O 医療法人代表であつた事、近畿大学医学部教授で免疫学がご専門の宮澤正顯先輩と繋がりがあつた事、更に日本での新型コロナ発端となつたダイヤモンドプリンセス号で厚生労働省管轄横浜検疫所所長として北澤潤君が最前線にいた事、飯田教育長の代田昭久君は自ら罹患者であつた事、因つてテーマは「新型コロナ」に收まるべくして收まつた。仕事柄もあるうが柳澤君の講演の仕切りは、機転の利いた安定感抜群の進行だったのはご存知の通り。

高校を卒業して38年、在京の地で再び同期とイベントを手掛けるのは高松祭以来か。それぞれが高いスキルを身に付けた彼等は輝き、本当に頼もしかつた。特筆すべきはホテル涉外係として展示やカメラの担当のはずだつた旧姓木下正子さんと北澤清孝君のコンビ。オンライン開催に関わるハード面に細部に渡つてリードしてもらつた。幹事メンバーの中でもこれらに長け、今となれば彼等以外での適任は考えづらい。また物販は一旦無しと決定したが、残り2か月頃、同期だけでも記念Tシャツをとなり、急遽奔走してくれた前島正之君・小平敦史君のコンビ。短期間に地元デザイナー水野雅史君と連携し素敵な記念物販をネット上に作成してもらつた。そしてシナリオ作成は旧姓近藤幸子さんが木下さんとタッグを組み、本番前夜ギリギリまで入念を極めた。近藤さんは当日ADとしても見事に裏方にも徹してくれた。さて司会者は決めは少し難航した。幹事長である自分は、司会者は女性をと考えたが、女性に拘る必要を問われて窮した。ここで卓球班同士の矢澤和敏君が立候補してくれたのだが、この時の私の安堵は鮮明に覚えている。しかし一転、リハーサルを

おこなうと、「画面に映る顔が男のみはむさ苦しい」と率直な感想が出た。リアル開催想定で受付予定だった旧姓中島淳子さんが引き受けてくれて、高校E組ペアの息の合ったあの軽妙な?司会振りとなる。これら配役の正に妙と言うべく、偶然にもばっちりハマった上、14名が互いにリスクペクトしあつて成功裏に幹事学年を全うできた。幹事長として本当に感謝に堪えない。そして私が幹事長となつたのは、これは奇妙と言うべきか。

## 56歳の妙

決してM U S Tな世界でないこの同窓会で脈々と幹事学年が講演会を完結できているのはなぜか? 長野県は同窓会好きというのは有名な話であるが、その中でも飯田高校のように同窓会誌を発行する組織は、外から見れば誠に稀有である。社会や家庭において落ち着き出す56歳という年齢や拠り所を求める人間本来の習性が、この在京の地で懐かしき愛校心・愛郷心を搔き立てるのであろう。ここ2年のオンライン開催は、同窓会活動を更に盤石なものとするヒントを皆が認識する事となり、これはコロナ禍の副産物である。我々はこの止まり木の下、旧交を温める足掛かりを間違ひなく、がつちりと、築いたのだ。

総会前日も会場を借りて打ち合わせ



キックオフ会は2年近く前の2019年12月



当日はおそろいのTシャツで

直前のリハーサル  
で最後の調整

